

今、深志神社とよばれて一つの神社になっていますが、かつては建御名方命をまつる宮村大明神と菅原道真を祭る天満宮の2社がありました。そして鳥居の西方の天神小路南には馬場が設けられていました。

○ 宮村大明神と天満宮

『信府統記』十九には、「宮村神社」としてつぎのように記されています。

北の社を天満大神、南の社を宮村大明神という。天神社は鎌田村にあっていつ創建されたかは不明であるが、慶長19（1614）年に小笠原秀政が城主であったときに、この地に勧請した。鎌田には旧跡がある。宮村大明神は上諏訪大明神を勧請してあるが創建はやはり不明である。社家に言い伝えられていることでは小笠原氏が井川にいたときに、この場所へ移して南向きに社殿を建てたが、永正年代に西向きに変えた。それまでは今の場所より東北の方にあった。慶長19年から両社が並んだ。祭礼は6月25日で、城主が祭礼用に毎年粃5俵を寄付する。祭礼の日は町奉行ならびに目付が出、足軽同心が警護に当たる。女鳥羽川より南は当社を産神とする。

この記述によれば、両社の創建時期は不明ですが、諏訪の祭神である建御名方命をまつった宮村大明神がまずあって、のちに鎌田から天満宮が勧請されたことがわかります。

また、同書一では、秀政が天神の社を勧請したときに、馬場を設けて天神馬場と名づけた、これは京都の北野天満宮の右近の馬場に準じたものだという、と記しています。



深志神社拝殿

例大祭、元旦祭、節分祭など多くの人で賑わう



狂歌堂真顔の狂歌碑

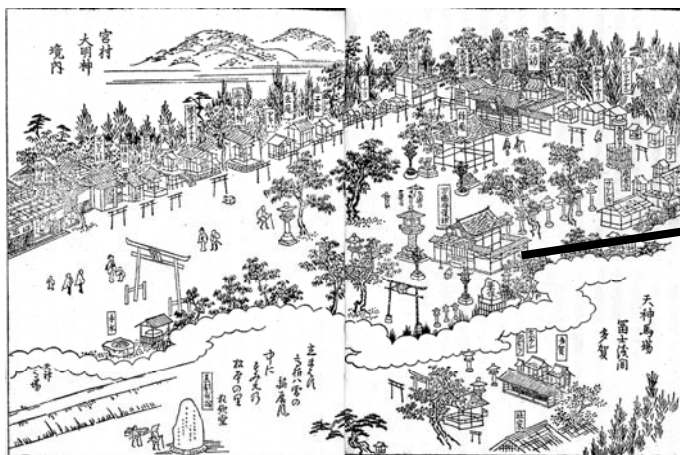
松本の冬景色を見事に詠っている

旧版『松本市史』によれば、天保12（1841）年に神祇官長吉田家に願い出て「深志神社」に改めたといわれます。歴代の藩主は厚く信仰しました。本殿は明治8（1875）年に建築され、御正忌大祭を迎えるにあたり平成13（2001）年に大改修されました（深志神社監修『菅公御正忌壹千壹百年大祭』）。

天保14（1843）年に美濃の人豊田利忠があらわし、嘉永2（1849）年に上梓された『善光寺道名所図会』（『新編信濃史料叢書』第21巻）には、境内の図が掲載されています。そこには天満宮と諏訪の社が並んで描かれています。また、たくさんの末社も描かれています。同書では「万商守護神」（市神）に注目し、「事代主を祭る、此例祭はむかしより正月十一日初市立とて、塩をひさく事あり」と、松本の初春の名物行事「あめ市」のことを記しています。

同じく天保期の初市の様子を描いたものに「市神祭之図」があります。原本は個人の方がお持ちですが、『松本市史』第2巻歴史編Ⅱ近世や『松本のあめ市』などの本に掲載されていて、容易にみることができます。この絵図には御神体を初市の仮宮であるまち中へ渡御する様子が描かれ、始めの部分に神社境内にある市神様の扉を開け祭りが始まる情景があります。

境内には石造物も多く、狂歌堂真顔が冬の松本の情景を見事に詠じた「立まはす 高嶺の雪は 銀屏風 中に墨絵の 松本の里」の歌碑があります。神社の南へまわると、隣に建つまつもと市民芸術館の裏に、かつて松本で寛永通宝を鑄造したことを記す銭座の碑があります。



現在の市神宮

深志神社境内の図

『善光寺道名所図会』より

毎年、7月24・25日におこなわれる祭礼では、氏子である町会から16台の舞台が出、神社に集結する様子も見ものです。また、元禄11（1698）年、水野忠直^{ただなお}によって奉納された神輿2基も松本市指定の重要文化財で、祭りの時には町内を練り歩きます。境内北側の建物「絵馬殿」の中には、長年にわたって奉納されてきた絵馬が数多く保存されていて、祭礼の日には公開されます。これも見ごたえがあるものです。



境内に並んだ舞台



上：神輿
下：絵馬殿

○ 天神馬場

深志神社の鳥居の南西に富士浅間社がありますが、この西方に馬場がありました。

富士浅間社は、旧版『松本市史』によれば、林城山の山麓にあって小笠原氏が崇敬していたものを小笠原貞慶がこの地に遷宮したと伝えています。また、同書は天神の馬場について、社前から本町に至る通路の南側に馬場を設け、京都の右近の馬場に模して南の堤に桜を植えた、通称天神馬場といったと説明しています。

松本の場合、紅葉^{もみじ}の馬場、柳^{やなぎ}の馬場、葵^{あおい}の馬場、北馬場^{きた}と本丸の付近に馬場が置かれました。それらと比較すると、天神馬場は場所が神社前にあり、馬場を描いた絵図にここだけ周囲を囲んだ土手の存在が描かれていて、他と異なっています。さらに設置者を小笠原秀政と伝えています。これらのことを考えると、天神馬場は通常の馬術の稽古場としてもうけられたというより、当初は小笠原流の武家故実^{ぶけこじつ}伝承にかかわっておかれた馬場ではないかとも考えられます。

後の時代も常用の馬場としてはつかわれなかったようで、旧版『松本市史』には、特別の場合馬上の試合とか打毬などに用いたとあります。



天神小路の南側に馬場があった



「享保十三年秋改 松本城下町絵図」

天神馬場の様子。左方：本町

右方：神社

長さ105間 幅4間半